

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 6年 3月 26日

事業所名 おひさま高島事業所

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	90%	10%			
	②	職員の配置数は適切である	100%				
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	90%	10%			
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル （目標設定と振り返り）に、広く職員が参画 している	100%				
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	90%	10%			
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	100%				
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている		50%	50%		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	90%	10%			
適切 な 支 援 の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	50%	50%			
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%			
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	80%	20%			
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	100%				
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせ放課後等デイサービス 計画を作成している	100%				
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の内容や役割分担に ついて確認している	100%				
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	100%				
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%				
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	100%				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	90%	10%			
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	90%	10%			
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%				
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			100%		現在、対象児童のご利用がありません。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%				
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		50%	50%		
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	70%	30%			
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			100%		
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	40%	40%	20%		
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	80%	20%			
保護者への説明責任等	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			100%		
	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%				
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			100%		
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		20%	80%		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑳	個人情報に十分注意している	100%				
	㉑	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	100%				
	㉒	事業所の行事に地域住民を招待する等地域 に開かれた事業運営を図っている	20%		80%		
非常時 等の 対応	㉓	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に 周知している	90%	10%			
	㉔	非常災害の発生に備え、定期的に避難、 救出その他必要な訓練を行っている	100%				
	㉕	虐待を防止するため、職員の研修機会を確 保する等、適切な対応をしている	100%				
	㉖	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、放課 後等デイサービス計画に記載している	100%				
	㉗	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている			100%		現在、 対象児童のご利用がござい ません。
	㉘	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で 共有している	100%				

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果 (公表)

公表:令和 6年 3月 26日

事業所名 おひさま高島事業所(放課後等デイサービス) 保護者等数(児童数) 20名 回収数 14件 割合70%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	100%				
	②	職員の配置数や専門性は適切である	100%			・多いくらいでとてもありがたいです。	
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされている	100%				
適切な 支援の 提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されている	100%			・ヒアリングして、丁寧にご指導してくださっています。	
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	100%			・休みの日など様々な活動をされています。 ・外出体験があり、子どもが喜んでいきます。	
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	20%	60%	20%		
保護者 への 説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%				
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができています	100%			・その時の状況や変化に寄り添い対応して頂いています。	
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	90%	10%			
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	10%	50%	40%		
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	90%	10%			
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	100%			・送迎のときなど、毎回お話をさせていただきます。	
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	60%	40%			
	⑭	個人情報に十分注意している	100%				
非常 時 等 の 対 応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されている	100%				
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	100%				
満	⑰	子どもは通所を楽しみにしている	100%			・とても楽しみにしています。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
満足度	⑮	事業所の支援に満足している	100%				

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等
 デイサービス自己評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 3月 26日

事業所名 おひさま高島事業所(児童発達支援) 保護者等数(児童数) 10名 回収数 7件 割合 70%

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない		
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	70%	15%		15%		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	85%		15%		・言語聴覚士などがいてほしい。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	70%	15%		15%	・空間が狭いと感じる。	
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画iiが作成されているか	100%				・きちんと聞き取りをした上で実施されている。	
	5	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	85%	15%				
	6	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%					
	7	活動プログラムiiiが固定化しないよう工夫されているか	85%	15%				
	8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	15%	15%	70%			
保護者への説明	9	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%					
	10	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	70%			30%		
	11	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われているか	15%	15%		70%		
	12	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	85%			15%	・利用の都度、わかりやすく説明がある。	
	13	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	70%		30%			
	14	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	20%	30%	50%			
	15	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	85%	15%			・相談したら、迅速に対応してくれている。	
16	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	85%	15%			・もう少しどうしたら良くなるのか等知りたい。		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	17	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	40%		30%	30%		
	18	個人情報の取扱いに十分注意されているか	100%					
非常時等の対応	19	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	70%			30%		
	20	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	100%				・前もって実施予定の説明がある。	
満足度	21	子どもは通所を楽しみにしているか	100%				・初めのころは慣れなかったが、今はとても楽しみにしており、終わったあとはいつも機嫌が良い。	
	22	事業所の支援に満足しているか	70%	15%		15%	・細かな対応をすぐにしてきてとても満足している。 ・職員は良いと思うが、支援内容についてもう少し話し合いながら利用したい。	

i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

ii 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

iii 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせることで実施されることが想定されています。

iv 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

（保護者等の皆様へ）

○ この児童発達支援評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所を利用しているお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」、「わからない」のいずれかに「○」を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。